

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2016年度 東京 SJCD 第1回例会・懇親会のご案内

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る5月29日(日)に開催されます2016年度 東京 SJCD 第1回例会についてご案内申し上げます。今回はインサーストレージングとして、東京 SJCD 顧問の土屋賢司先生にご登壇いただけることになりました。総合的な観点から症例を分析し、治療戦略を立てるという SJCD の真髄とも言える考え方、そして複雑な修復治療を成功に導くための臨床的ガイドラインについて、たっぷり時間を取り、コンセプトを詳しく解説していただく予定です。また、会員のケースプレゼンテーションにおいては、土屋賢司先生に座長、山崎長郎先生、大河雅之先生にコメンテーターをお願いし、診査・診断に基づく包括的な治療を実践されている2名の先生方の症例をもとに、ディスカッションを盛り上げたいと考えております。今回は、大変充実した内容となっております。満足度の高い例会になると予想しております。

例会後には、毎年大好評の懇親会も用意しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 2016年5月29日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

懇親会会場 17:30~ / 都市センターホテル オリオン 5F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

-インサーストレージング-

「The Harmony with Esthetics and Function in Complex Restorative Patients」

土屋歯科クリニック & works 土屋賢司先生

-ケースプレゼンテーション-

「Clinical Challenge in Interdisciplinary Maxillofacial-dental Therapy
Simplifying Complex Restorative Dentistry」

内山歯科クリニック 内山徹哉先生

「オープンバイトに対して、咬合再構成を行った一症例」

川原歯科医院 川原淳先生

『The Harmony with Esthetics and Function in Complex Restorative Patients』

土屋賢司（土屋歯科クリニック & works）

1958年 神奈川県出身
1984年 日本大学歯学部卒業
1989年 千代田区二番町に土屋歯科クリニックを開業
2003年 千代田区平河町に土屋歯科クリニック & WORKS
オーラルケア・エステティック・インプラントセンターを設立
S J C D インターナショナル専務理事
東京 S J C D 元会長・顧問

「審美修復治療」は予防、インプラントとともに、現在では歯科治療のオプションの一つとして一般の世界にも定着しつつある。国民の健康に対する意識の向上、社会の成熟に伴う美への要求と共に、口腔内に対する意識も益々高まってきているといっていよう。しかしながら審美的な要素を追求するのみでその結果を長期に維持すべく機能的な側面を軽視してはならない。構造力学的に耐久力のある歯牙を鑑別診断し、炎症のない補綴物と調和のとれた歯周組織に仕上げ、さらに咬合再構成を要する場合に必要な咬合様式を獲得することが永続性のある審美修復を実現できる最も重要な要素であろう。また修復治療を行う上で顔面の構成要素としての口腔であることを大前提とすべきで、顔貌、歯列などの診査が不可欠であり、補綴物製作の前に生体を扱っていることを忘れてはならない。今回複雑な修復治療構築を成功に導くための臨床的ガイドラインをいくつかの症例をご紹介しながら解説したいと思う。

『Clinical Challenge in Interdisciplinary Maxillofacial-dental Therapy Simplifying Complex Restorative Dentistry』

内山徹哉（内山歯科クリニック）

2004年 東京歯科大学卒業
2010年 内山歯科クリニック開設
所属 東京 SJCD

2012年、全国の自治体で初めて東京都港区で8020達成者が50%を超えたが、本国には欠損を有する患者が多く存在する。しかしながら咬合崩壊患者に対する咬合高径、顎位の設定法は様々であり、それに対する治療法も多岐にわたる。日々進化を遂げている歯冠修復治療における材料の選択もまた然りであり、我々歯科医師はその中から診断方法、修復材料を考え、目の前にある問題を改善すべく、複雑な治療に挑んでいる。

本発表は、臼歯部を中心に咬合崩壊を起こしている患者に対し、専門家とジェネラリストがチームを組み、Interdisciplinary Therapyを実践したものである。

後天的な咬合崩壊に対してmaxilla facial analysisを用いて顎顔面を分析し、現在のそれとの調和を目指した。最小限の侵襲で予知性のある修復治療を実現するために、どのような点に留意して包括的歯科治療を進めていったのかを各段階ごとに解説させていただく。

『オープンバイトに対して、咬合再構成を行った一症例』

川原 淳（川原歯科医院）

1993年 日本歯科大学卒業

同年 川原歯科医院勤務～現在に至る

1999年 カトウ矯正歯科クリニック

（都内・日本矯正歯科学会指導医、専門医）勤務～現在に至る

所属団体

- ・東京SJCD
- ・日本口腔インプラント学会 専門医
- ・OJ 正会員
- ・日本矯正歯科学会
- ・日本顕微鏡歯科学会
- ・日本メタルフリー歯科学会

補綴治療を行う際、術前の咬頭嵌合位が適切であるかどうかを常に評価することが大切であり、それがもし生理的に安定していないと診断され、治療咬合が必要となった場合、術者が下顎位を新たに決定しなければならない。また顎位の低下が疑われる際は、咬合高径を挙上し、審美、機能の改善を図る方法が行われるが、反対に、咬合高径を下げるケースというものは、日常臨床で、そう多くはないと思われる。しかしオープンバイトに関しては、前歯の被蓋改善を目的として、咬合高径を下げる必要性がケースによっては存在します。

今回は、顎位の不安定なオープンバイトに対して、様々な術前診査と共に検討し治療に取り組み、再評価を行いながら補綴を含めて咬合再構成を行ったケースを、考察を含めて報告させて頂き、ご批判、ご指導を仰ぎたいと思います。